

校長室だより

第15号

平成29年12月22日

MOTTAINAI (もったいない)



火曜日、ちょうど食事をしているとTVドラマ『明日の約束』が流れていた。つれあいが毎回観ていた。私は、(出演している仲間由紀恵さんの役どころが、これまでと全然違うな)と思うぐらいで、ストーリーも理解せず、夕食と晩酌をしている時間帯だった。

最終回、主演の井上真央さん演じるスクールカウンセラーの台詞が、急に心に入ってきた。(すごく深いことを言ってる…!!)そこから、画面に集中して、最後の20分あまりを真剣に観た。生きることの深い意味を、亡くなった高校生の死と、自らの半生とも重ねて、とつとつと語られた。

本当の自立を決意し、母に家を出ることを告げた時、母からは冷たい言葉を浴びせられた。その時、彼女は「私を生んだ人を嫌いとは言わない。それは、自分自信を否定することになるから…」との言葉しか返さなかった。

また、学校の離任式(?)。生徒への挨拶では、「許せないのは、亡くなった〇〇くん。生きて欲しかった!自殺という行為を、生きることからの逃げる手段として使ってほしくない。悩みや苦しみを抱えながら生きていることは、誇りに思えること。悩みを抱えて生きることから、逃げて欲しくなかった。辛かったら、逃げてください。生きてさえいたら、やり直せることがあるから…」と。(「」の台詞は、テレビを観ながらのメモ)

あらためて、「生きることの意味」を深く考えさせられました。

ドラマが終わり、「お母さん録画してる?」「今日の分だけ。今までの分は、消したよ」とのこと。ネットで調べてみると、本(脚本)が出ているようです。この冬休み、『明日の約束』を読もう。そして、自分にとっての生きることの意味、自分を生み育ててくれた父母のこと、そして、自分に何がつながっているのか、考え直してみようと思っています。



## 子どもの求めているもの…

先日、母親の93歳の誕生祝いを、近くの回る寿司で行った。私の母と、連れ合いの母と、今、我が家で暮らす息子一家の総勢8人で2つのテーブルを囲んで夕食をとった。

帰り道、私の母と連れ合いの母は、高齢者ケア住宅に連れ合いが車で送った。私は、息子夫婦に両手を握ってもらって孫たちと歩いて家に帰った。

その時、どんな脈絡か分からないが、突然、孫が「ママ大好き！パパ大好き！」そして、また「ママ大好き！パパ大好き！」と。ママ（私からは義理の娘）が「じいじいも好きでしょ！」と気遣ってくれるが、繰り返されるのは、「ママ大好き！パパ大好き！」。

そう言えば、私の息子もかつての私と一緒に、子どもが寝てからしか仕事から帰ってこれない日が多い。孫は寿司が特段好きな訳でもない。何気ないことだが、どんなご馳走より、家族が揃う時間が心を和ませたのだろう。

## スイスからのクリスマスプレゼント！



この夏、体験留学された、スイスの山本さんが、スイスバーゼルの写真を送って下さいました。写真はライン川とクリスマスマーケットの様子です。現地は、毎日0度前後らしいです。写真にも白いもの（雪）が見えます。

印刷では、美しいクリスマスマーケットの夜景が、伝わりにくいと思います。是非、天美小学校HP、配布文書一覧から、ご覧下さい。

## おめでとう！ こども棋聖、川端篤士さん

囲碁こども棋聖に保田君と川端君 倉敷で吉備真備杯準決勝、決勝

ツイート

囲碁の小学生全国大会「第7回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦」（倉敷市、日本棋院など主催、山陽新聞社など共催）は2日目の17日、同市真備町箭田のマービーふれあいセンターで準決勝と決勝を行った。高学年の部は保田翔太君（11）＝愛知・植田小6年、低学年の部は川端篤士君（9）＝大阪・天美小3年＝が優勝し「こども棋聖」の称号を手にした。

決勝では序盤から優勢に立った保田君は「終盤に迫られたが、粘って勝ててよかった」と喜んだ。初出場の川端君は序盤の劣勢をはね返しての勝利に「練習してきた得意の寄せが生きた」と笑顔を見せた。



井山棋聖（中央）と記念写真に納まる保田君（左）と川端君

[動画をみる](#)

（山陽新聞デジタルより）

本校3年生の川端篤士さんが、「第7回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦」、低学年の部で優勝。

先日、国民栄誉賞が決まった井山裕太棋聖（七冠）から、「こども棋聖」の称号を与える允許（いんきょ）状を受け取りました。

決勝戦、序盤は劣勢だったものの、得意の寄せで巻き返し、優勝しました。今後の活躍が、ますます楽しみです。がんばれ川端さん！